

週刊センターニュース No.260



第260号(2009年5月25日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 第232回共同学習会のご案内 ○●○

日時: 5月29日(金) 16時30分~18時

※今週は金曜日に行います。通常と異なりますのでご注意ください。

会場: 角間キャンパス総合教育1号館6階E1講義室

企画: 大学教育開発・支援センター

報告者: 堀井祐介、渡辺達雄、末本哲雄、竹本寛秋

テーマ: 大学教育研究の最前線—第12回高等教育学会参加報告—

趣旨: 近年の高等教育における授業改善と学力評価に対する注目により、全国の高等教育機関において様々な工夫がなされ、実践されている。さらに「学士力」というキーワードも現れ、高等教育機関が育成すべき人材について議論が活発になってきており、金沢大学においても検討がされるべき課題となっている。

上記のような高等教育機関が抱える現代的課題について研究・実践報告がされる学会の1つである日本高等教育学会が今年5月23日、24日の2日間、長崎大学で開催された。当センターからはセンターメンバー4名の他、FD・ICT教育推進室の特任助教2名が参加した。本センターメンバーが行った研究・実践報告の概要と聴講者からのレスポンスの他、他の参加者の報告、注目されている研究・実践などを紹介する。

○●○ 日本教育工学会研究会参加報告 ○●○

「増え続けるビデオ・アーカイブをどう管理し、どう公開して活用していくのか」これが今回、5月16日(土)徳島大学において行われた日本教育工学会研究会「ICTを活用したFD/一般」での研究発表の軸の一つに感じられた。金沢大学においても、多くの授業で授業の撮影が行われ、データの蓄積が行われている。しかしながら、現状においてそれがどれだけ公開され、活用されているかを考えると、不十分な面を感じざるを得ない。公開に関しては、様々な問題が考えられる。どこで公開するのか、誰を想定して公開するのか、といった問題から、単に授業を流しただけでは効率的ではないという意見、授業を配信することによってどのような効果があるのかに対する疑問、それがどのようにFDにつながるのか不明確であるという意見など、単にどこかで配信すればよい、というほど問題は単純ではない。

その点において、非常に参考になった発表として、加藤由香里氏ら東京農工大によるプロジェクト「FD Commonsによる教育改善の展開」を挙げたい。「FD Commons」システムの大まかな概要は以下の通りだ。①授業風景を撮影し、リアルタイムでタブレットPCに送信する。②複数人の評価者が、送られたタブレットPC上の画像に、リアルタイムでコメントを書き込んでいく。③コメントがつけられた場面は「授業観察サマリー」として、データベースに記録される。当該コメントの静止画をクリックすることで、その地点から数分後までの映像が再生される。

このようなシステムにより「FD Commons」においては、90分の授業を検討する際、同じ時間を費やすことなく、短時間で授業の振り返りや授業の検討を行うことができる。加藤氏によると、「FD Commons」は、「評価者支援」「授業者支援」の双方を考慮し、最小限の時間・労力でのピア・レビューを可能にし、知見を蓄積できるシステムとして開発されたと言う。確かに、このシステムによれば、授業後にビデオを編集する労力、視聴し検討する時間は大幅に短縮できる。

ただし、問題としては、こうしたシステムを稼働させるためのコストが、タブレット PC 費用やシステム構築費、稼働のためのマンパワーとしてかからざるをえないことが依然挙げられる。私自身の感想としては、タブレット PC にこだわることなく、一般の PC でも稼働可能なシステムとして汎用性を高め、どんな PC であろうとソフトウェアをインストールするだけで良いものとするれば、より柔軟で自由度の高いシステムになるのではないかという思いを抱いた。

もう一つ、収録されたビデオ・アーカイブを「どのように公開し、活用していくのか」に関する興味深い実践として、岩手大学・大学教育総合センターによる『『匠の技』伝承プロジェクト』を挙げる。「匠の技」においては、優れた授業実践を十分間程度のコンテンツとして編集し、提供している。そこにおいて、そうしたビデオを「コメント」や「ポイント」によって評価する「場」を形成できるシステムが、SNS エンジンである OpenPNE により構築されているのが特徴だ。

「匠の技」においては、授業のエッセンスを十分程度にまとめた映像のほかに、授業時間すべてを収録した映像アーカイブ、また、授業に役立つ教材資料、授業の工夫に関する意見交換を、SNS エンジンを用いて自由にコメントしあうシステムが構築されている。これにより、それぞれのコンテンツは「コメント」「ポイント」による評価によって、リアルタイムに差別化されていくことになる。そうした評価は、次に映像を見る人に対する指針として機能しうるだろう。ただし、これはシステムの構造・運用によりけりという問題でもあるのだが、自由な意見による差別化が悪しき授業の序列化につながる可能性は多分にあり得る。また、「コメント」がストレートに反映、誰でも閲覧可能になった場合、授業者・評価者における何らかの摩擦を起こす可能性が否定できない。しかし、すべての授業コンテンツをすべて並列に扱い、配信するだけでは、「ただ流すだけ」になってしまう他はない。その意味で、「匠の技」の試みは、微妙なコントロールの上に運用されているシステムとして、非常に興味深い試みに感じられた。

私個人としては、近年注目されている「SNS の教育利用」を考えたとき、「初めに SNS ありき」という発想には疑問を感じている。そもそも、「SNS とは何か」ということを考えたとき、それが現在日本で一般に考えられているような、「いわゆる SNS」の形をとる必要は全くないと考えている。いわゆる「SNS」も、「ブログ」も、「リレーショナルデータベースを如何に利用するか」に関してたまたま定着した形態に過ぎない。商業的「SNS」の現場においては、その商業効果への疑問から、既に「ポスト SNS」が模索されているのが現実だ。固定観念としての「SNS」を出発点にすることなく、いかに教育において効果的なシステムを構築するかが、今後のシステム設計上で重要なことになると思われる。

(文責 FD・ICT 教育推進室 竹本寛秋)

○●○ 大学教育学会第 31 回大会について ○●○

2009年6月6日(土)、7日(日)に、首都大学東京南大沢キャンパス(東京都八王子市南大沢1-1)において、大学教育学会第31回大会が開催されます。総合テーマを「教育者としての大学教員」として、基調講演に寺崎昌男学会長による「大学教員と初・中等教員-求められる能力の異同(仮題)」、また「大学教員のパフォーマンス評価」「大学教員の養成・研修-Disciplineとの相克・相生」の各テーマでのシンポジウムが予定されています。その他にも様々なラウンドテーブル及び自由研究発表が設定され、本センターメンバーも、各部会において研究成果を発表する予定です。詳細は、次の通りです。

- ・テーブルV 「FDネットワークの可能性を拓く」 青野 透
- ・テーブルXI 「教育改善のための教育情報アーカイブス：オンライン授業公開から電子ポートフォリオまで」 堀井祐介
- ・自由研究VI 情報教育・ICT利用「授業客観化のためのクリッカー活用」
青野 透、末本哲雄、山川達也(キーパッド・ジャパン)
- ・自由研究VII 授業改善「金沢大学1年生の学習意欲と意味ある授業」 末本哲雄、青野 透
- ・自由研究IX 理系授業開発「科学リテラシー教育としての実験教育の開発」 西山宣昭

大学教育に関心をお持ちの方々、是非ご参加下さい。大会のスケジュールは、

<http://www.daigakuyoiku-gakkai.org/menu.htm> から学会HPに入り、TOPICSの項目中、ニュースレターNo.81をご参照ください。